

とは彼の華やかな日没の光景がどんな感情を人に起させるかを考へてみればわかるのであります。

藝術は無窮であります。随つて其の心理も亦未だ研究の余地が充分あります。我々が模倣の中に見出す樂や自分自身を表現することの樂、又我々の性質を言ひ表す絶體的必要や藝術、戯曲が氣を爽にする理由等皆研究の好材料であります。こゝに私の述べましたのは藝術の實驗的研究の一端で而も其の研究は藝術的衝動の緒を究めたに過ぎませぬからこれによつて直に哲學的眞理の何物

如何にして幼兒に圖畫を描かしむべきか

東京女子高等師範學校助教 藤

五代 策

幼兒に鉛筆や筆の如きものを與ふると、何よりの大喜びで、そこらあたりの壁でも障子でも遠慮なしに何か自分の思ふまゝの形を描くものである

なるかを覗ひ知らうとは無理な注文であります。此の研究は要するに藝術に於る完成した博物學とでもいふやうなもので之によつて美の色々の形を認め併せて如何に其個々の美が總體美に、影響するかを知ることが出来るのであります。及若し此の研究によつて個人的嗜好の起る理由及び藝術の歴史的發展と分離との理由をも説明することが出来れば此の研究は少くとも或る纏つた研究の端緒となすものといつてよいであります(ストラットンより)。

此の自發心を啓發して善良に導かば教育上多大の効果を收め得らるゝものであらふ、さるにも係らず世の父兄は鉛筆や筆を幼兒の大禁物として没收

するものあるは誠に遺憾千萬である、ハイム氏は云へらく「兒童は思想に富み感情に餘りあるより技術的正確なる方法に拘はらず己が想像を寫すことある可し教師の干渉すべきは此の點にあるなり」と又曰く「世の父兄は愛兒の口腹の慾を充たしむるを知りて天賦の圖畫の慾望を満足せしめ之を利導することを知らず」と歐米の教育家は皆異口同音に幼兒に圖畫を學習せしむることの最も有益なることを説かれて居るのである、併し手指未だ軟弱にしてしかも經驗の甚だ乏しき幼兒等に向つて實際に畫を描かせやうとするは甚だ困難なる仕事である、彼の小學校の兒童の様に嚴重に臨畫せしむるとか寫生せしむるとか又考案畫せしむるとか如きことは望まれないから、まだく是等の方法よりもずつと手易い方法によつて描出せしむべきこと、思はる、左に之れが描寫法の四五を掲ぐることにせう。

一、平面形の折紙細工品又は草木の葉を寫さしむること。

兜、福助、蟬などの如く、平面形に折られたる折紙細工品は、畫用紙面に密着せしめて其の輪廓を描か、から、幼兒は殆んど器械的に其の形を描かるゝので頗る興味を有するものである。

又草木の葉は、この折紙品に比して種々の變化に富み、且秋末のものは實に觀賞措くべからざる美色を呈し居れば、幼兒は喜んで其の形を描かうとするものである、バイレー氏曰らく「實物を手本として畫を學ばしむるは圖畫教育上最も有効なるものなり而して其の手本と爲すべき實物は之を植物に求むるを最良とす植物は何れの場所に於ても之を得るに難からず且つ其形狀の簡單にして變化に富めるは他物の及ばざる所なり又小兒は概して草木を愛す故に好みて其寫生を敢てすべし」と併し植物の花は平面のもの少なく幼兒の寫生に

は頗る困難なれども。葉は數種のものを除く外は殆ど皆平面形であるから、幼兒の寫生には最適當のものである、若し甚だしく曲れる葉などは、新聞紙等に挿み一夜間重しをかくれば平面になるから、之を畫用紙に載せて輪廓を寫さばよく描かるゝのである、輪廓が出来たら綠、赤、黃などの色鉛筆にて自然の色を塗さすのである。

二、盛に影畫を描かしむること。

影畫のことは「シルネット」の描法と稱へて、近時圖畫教授上盛に應用されてゐる、之れは物體と空間との境界を明瞭に見はすために圖形の輪廓内を全く黒く塗り潰した描き方である、或は又之れと反對に空間を全く黒く塗り潰した物體のみを眞白く殘すこともある、さて此の影畫は如何にして作るかと云ふに、物體の一方に強き光線を受けしめ反對の方を全く暗くなして、紙か板の如きものをして、その影を受けしむれば該物の形狀が寫さるゝ

のである、電氣燈や瓦斯燈の眞下に於て電車、船、犬、猫の如き小形の玩具類を此の方法によりて寫さしめんは幼兒の最も好む處である。

三、針金にて大體の輪廓を作り之れを寫さしむること。

前二種の方法は實物の輪廓をそのまゝ寫すと云ふことであつたが、こゝに云ふ針金輪廓法は思ふまゝの圖形を作り與へて之を描かせ得る簡便法である、其の法は先づ銅の針金の二十番位のものをして二尺位の長さに切り、之れを藁火にて焼くときは極めて柔かになりて自由に曲ぐる事が出来るから、保姆又は父兄の方々は犬、猫、兎などの大體の輪廓を作りて幼兒に與へるのである。幼兒はその輪廓型を畫紙の上に載せて鉛筆にて輪廓を辿り寫すのである、勿論此の輪廓型は細部分をまで作ることとは出来ぬから、それ等の細き部分は幼兒が後で描き加へるのである、針金は何度でも使へるが

若し硬くなつたら、再び藁火で熱するのである、時にはこの針金にて幼児自身に林檎、瓢箪、慈姑などの形を曲げさすことも手工として又圖畫として極めて面白い方法であらう。

四、畫用紙に必要な形狀を描き與へ其の他の部分に幼兒に描かしむること。

例へば兎と龜の驅けくらべの畫を描かしめんに、先づ兎の頭、脚等を描き又龜の首と脚位を極めて簡易に淡い青色の鉛筆にて描き與へ、幼兒に餘他の部分を描き足させて好みの畫を作らすのである。若し騰寫版又は印刷等にて此の原圖が刷らるゝならば餘程保姆の手數が省かるゝことである。

五、透寫畫を描かすべきこと。

透寫畫とは模範畫即ち手本を透視して描かす方法である、而して此の透視法には薄用紙を用ふる場合と、硝子板を用ふる場合との二方法がある、

普通の判紙は極めて薄いから、よく手本を透寫して描くことが出来る、併し判紙には鉛筆では描き悪く上に鉛筆の色がよく見えない、畫用紙の方は厚いから手本をよく寫さうと、するには硝子戸の上に手本と畫用紙とを重ねて透寫すればよく描かるのである、或は畫用紙を下に手本を上になして火箸の先端の如きものにて手本を押へて寫すことも出来るのである、次に硝子板に透寫する方法は玩具として販賣してゐるが、其の構造は長七寸幅五寸位の黝色擦り硝子の下に手本を布き、色石筆もて其の上より透寫するのである。

斯く方法を研究すれば尙幾種類もあるであらう要するに幼兒の圖畫は保姆の方より六七分までは献立をなし與へて、三四分の部分に向つて描かす様にしたならば頗る佳良の成績が見らるゝであらふ、いくら幼兒だからとて、從來の如く全く放任して描かせては、いつまで立つても上手にはなれ

ない、勿論幼稚園の保育法は小學校の教授訓練の如く、八釜敷申すべき程でもあるまいけれども、圖畫なども今少し深く研究したならば、種々の妙

一月に咲く花二つ三つ

東京女子高等師範學校助教授

保井コノ

ふくじゆさう又、元日草は漢名を側金盞花と申します、植物學上からは、毛茛科に屬する多年生草木であります、休眠して居た地下莖から地上莖を抽出する時地上莖は大きな鱗片葉を以て居りまして是が若い葉や苔を包んで居る爲に筍の様な様子を致します、此鱗片葉は全く若い葉や苔を保護する爲のもので、櫻や桃の芽が冬籠りをする間に是を保護するのもやはり鱗片葉であります、さて此特別の葉の中から最初に抽出るのは花であります、花は五個の萼がありますそして其中に十枚以

案も案出せらるゝことであらふと余は大に希望を有してゐる次第である。

上の瓣からなる花冠があります、花冠の色は普通は黄色で、ふくじゆさうといへば普通黄色の花との考が一番に出て來さうであります、白色、紅色、淡黄と様々の色のがあり瓣の形も細いのが廣いのが様々あります、雄藥は多數、雌藥も多數あります。

最初に頂きの花が咲いて次々に其下の枝の花が咲きまた葉を出します、葉は複羽状をして居りまして可憐であります、普通は花を賞しますが、葉の出た後も注意しますと其後の枝にも花をつけま